

・・・自分だけよければいいという利己的な心を抑え、利他的な美しい心を発揮していくには、どうすればよいのでしょうか。そのことについて、先ほど紹介したイギリスの哲学者ジェームズ・アレンは、人間の心を庭に例えて、次のように表現しています。

人間の心は、庭のようなものです。それは知的に耕されることもあれば、野放しにされることもあります。そこからは、どちらの場合にも必ず何かが生えてきます。

もしあなたが自分の庭に、美しい草花の種を蒔かなかったなら、そこにはやがて雑草の種が無数に舞い落ち、雑草のみが生い茂ることになります。すぐれた園芸家は、庭を耕し、雑草を取り除き、美しい草花の種を蒔き、それを育み続けます。

同様に、私たちも、もし素晴らしい人生を生きたいのなら、自分の心の庭を掘り起こし、そこから不純な誤った思いを一掃し、そのあとに清らかな正しい思いを植えつけ、それを育みつづければなりません。

このようにジェームズ・アレンは言っています。つまり、**人間の心というものは、自分で手入れをしなければならないのです。放っておいたのでは、雑草が生い茂る庭ようになってしまいます。素晴らしい草花が綺麗(きれい)に咲いた庭のような美しい心にするためには、自分の心の状態をよく確認して、手入れをする必要があるということ**を彼は説いています。

雑草の生い茂る心のままに人生を生きていったのでは、人柄もひねくれた意地悪な性格の人間になっていきます。同時に、そういう悪い人間性を持った人の周囲には、その人間性に合ったように波瀾万丈で困難なことが次々と起こってくるようになります。



一方、先ほども言いましたように、綺麗な美しい心で生きていく人は、素晴らしい人間性、人柄、人格になると同時に、その人の周囲にも、その人間性、人柄、人格に合ったような素晴らしい出来事が起こってきます。仕事も順調にいき、会社も繁栄し、豊かで平和な家庭が築けるといったように、素晴らしい環境が周囲にできてくるわけです。心に抱く「思い」というものは、それほど偉大な力を持っているのです。

皆さんはいま、将来に向けて学校や塾で一所懸命に勉強していらっしゃると思います。もちろん、それもとて大切なことですが、さらに大事なのは、いまお話した心の手入れ、心の整理なのです。

私は、「自分だけよければいい」という利己的で邪（よこしま）な心なるべく抑え、思いやりに溢れた美しい利他の心が自分の心の大部分を占めるように、心の庭を手入れしていくようにしなければならないと言いました。実は、この自分の心を綺麗にするということは、宗教家の方々が修行や荒行を通じて行っておられます。厳しい修行を通じて自分を鍛え、心を整えるようにしておられます。

ですから、ともすると心を美しく綺麗なものにしていくということは、一般の我われが行うことではなく、宗教家の仕事のように思われがちです。しかし、決してそうではありません。

いま、こうして生きている誰もが、自らの心を美しいものにしていくことが、その人の人生にとって大変大切なことだということに気づき、「思い」が発するベースである心を綺麗にすることに努めなければならないかもしれません。